

大正四年六月二十一日第三種郵便物認可 (毎月一回一日發行)

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷三十三第

行發日一月一十年六和昭

論叢

景氣徵候論について……………文學博士 高田保馬

魚食論……………法學博士 財部靜治

英國の重農主義者……………經濟學博士 堀經夫

時論

赤字財政と對策……………法學博士 神戶正雄

平價切下論を駁す……………經濟學博士 汐見三郎

研究

カツセル教授の貨幣數量説の實證の吟味……………經濟學士 柴田敬

獨逸大銀行と中小工業金融……………經濟學士 楠見一正

金數量説に就いて……………經濟學士 松岡孝兒

說苑

ケインズの基本的均衡關係……………經濟學士 中谷實

世帯統計に就て……………經濟學士 岡崎文規

貸借對照表の基礎的考察……………經濟學士 熊本吉郎

老齡船の處分に就いて……………經濟學士 佐波宣平

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

經濟論叢

第三十三卷 第五號 (通卷第百九十七號)

昭和六年十一月發行

論叢

景氣徵候論について

高田保馬

目次

- 一、景氣徵候論の意義——
- 二、狹義の景氣徵候論——
- 三、平行運動——
- 四、繼起運動 \parallel 遅れ——
- 五、鉅形運動——
- 六、一般指數の可能性

一、景氣徵候論の意義

景氣徵候論 (Symptomatologie der Konjunktur, Konjunktursymptomatik, cyclical symptomatology) はこれを最も廣義に解するならば、景氣變動の經過そのものゝ一般的知識即ちその定型學 (Konjunkturtypologie) に外ならぬ。景氣の理論的考察の中心は、その原因を明にし法則的説明を與ふ

るにある。けれども此因果的考察は必然に、景氣變動そのものに關する知識を豫想することは言ふまでもない。

而も此必要とせらるゝ知識は、自明のことであるが、一々の景氣變動の經過の具體的個別的なる知識ではない。云はゞ事實の平面を離れざるところの普遍化的考察であり、景氣の定型學である。經濟そのものを以て、一の有機的なるものとして、比喩的に見る場合に、此景氣定型學が景氣徵候論と見られる。蓋し、景氣變動の全經過を形づくるすべての變動が經濟有機體の状態（私には此表現をたゞ比喩的にのみ、即ち各部分の相互作用を高調する意味に於てのみ用ふる）の外的表現、即ち景氣の徵候 (Symptom) として認めるが故である。

此意味に於ける景氣徵候論は勿論、二の部分を含む。一は景氣變動過程そのものを一括してみたるよきの概括的考察にして、大體それは景氣の各段階の繼起の智識である。景氣の波長及び段階の知識は當然、それに前提とせられ又は包括せられる。二は景氣變動の過程に含まれたる各部分的變動間の相互關係を明にすることである、而も此關係を因果的に究明することではない。あくまで之を事實の平面の上に於て明にすることである。換言すれば、その「運動要素の推量的又は蓋然的結合」(stochastische Verbundenheiten od. Abhängigkeiten der Bewegungselemente) を明にすることである。此推量的依存の知識はそれ自體として獨立の價值を有すること勿論であるが、

1) Altschul, Konjunkturtheorie u. Konjunkturstatistik, Archiv f. Sozialw. u. Sozialp. 55 Bd. I. Heft; Bortkiewicz, Iterationen. Ein Beitrag zur Wahrscheinlichkeitstheorie, 1917.

景氣理論は亦之を景氣徵候論より受け入れ、それに因果的説明を加ふることによりて法則的知識にまで高め上げる。従ひて、それは景氣理論の中に説明を加へらるべき部分として入り込む。

廣義に於ける景氣徵候論を構成する二の部分のうち、前者については、大體の知識が久しく常識的に、従ひて精確なる統計的研究をまたずして既に得られてゐた。而してそれに基いて、景氣理論が構成せられて來た。勿論その嚴密なる認識は、最近景氣變動に關する統計的研究の結果によりて漸次に完成の域に進みつゝある。然るに後者即ち、景氣循環に於ける部分的變動の相互關係の認識に至りては、事態の極めて複雑なるが爲に、精密なる統計的操作をまたずして得らるべくもない。即ちかゝる推量的相互依存の認識は統計的資料を用ひ統計學的操作を加ふるに非ざれば之を明にし得ないものである。大體、景氣徵候論が完成の道を辿るには、必然に統計學的組織的研究たらざるを得ぬ。而も此特色の最も發揮せらるゝもの、詳言すれば、かゝる方法によらざれば全く構成せられ得ざる知識は、此相互關係のそれである。かくて、景氣徵候論は、狹義に於てはかゝる相互關係の知識を意味することとなる。かゝる事情から私は茲に、暑氣徵候論の名稱の下に、景氣變動の部分的事象間の相互依存を明にしようとする。勿論これは事實の平面を去つて因果の範圍に入るのではない。

二、狹義の景氣徵候論

景氣變動の經過の各部分間の相互關係は、次の二點から考察せらるゝことが出来る。一はかゝる關係の形式的方面の考察である。これは景氣變動を構成する各部分的事象の變動相互間の關係の形態又は定型、及び、景氣變動の各段階の間の相互關係の形態の二方面の考察に分たれる。而して此等の考察は當然に、景氣狀態に關する一般的指數の可能、景氣豫測の可能の問題に導く。二はかの相互關係の内容的方面の考察である。重要な部分的事象の變動そのものをとらへ、これを中心として部分的變動の相互關係を實質の上から考察する。茲にはまづ前者について。

此問題の取扱に入るまへに、徵候的系列 (symptomatische Reiche) の意義を明にする。これは一定の事象の變動の徵候、即ち外的表現として見るべきめじるしの時系列である。此場合について云へば景氣の變動の外的表現の時系列である。其外的表現は種々なる方面にわたり得る、従ひてそれは極めて多種類のものである。景氣の變動を特に強く反映するところのものがあり、僅にのみ之を示すところのものがある。又他の種類の變動(たとへば生長的變動)を示すとともに景氣變動をも併せて示すものがあり、景氣變動のみを示すものがある。

景氣の變動を特に強く表示するものは、徵候的性質の明なるものであり、之を弱く表示するも

のは、その明ならざるものである。弱く表示するものゝ極端にありては、農作物の收穫の如く今日に於ては殆ど景氣の動きを示さずと見らるべきものがある。生産財の生産量の如きは前者に屬し、消費財、ことにその中の消滅財（いはゆる *ephemeral goods, Verbrauchsgüter*）の如きは後者に屬する。景氣の變動のみを表示するものを純粹なる徴候的系列と云ひ、然らざるを複合的なるそれと言ふ。たとへば（季節的變化を外にして考ふるとき）就業率の如きは比較的純粹なるものである、獨占組織の顯著でない時期、例へば大戰前の歐洲資本主義經濟にありては、價格も亦さうであつた。これに反して生産物數量、取引總價額、銀行預金總額と云ふが如きものは著しく混合的なるものである。その中に生長的發達の變動と共に景氣變動が織り込まれてゐる。混合的なる徴候的系列は別に述べたるが如く、その中から、長期傾向的、季節的變動の要素を、とり去ることにより、相當に純粹なるところの徴候的系列にまで作りかへられる²⁾。景氣變動の考察に於ては常に、代表的なる徴候的系列を選択することが必要である。けれども此選擇にありては必ずや、一定の選擇原理を必要とする、而も此選擇原理は系列の知識自體からは出て來ない。結局に於て景氣變動自體に關する理論的知識が前提せられ、それによりてはじめて選擇が可能となる。さうでない以上、前述の如く *petitio principii* から免れることは出來ぬはずである³⁾。

徴候的系列は他の見地から、單純のものと複合的のものとの區分せられる。一體、經濟的數量

2) Wagemann, Einführung, S. 75; Mitchell, Business Cycles, 1930, p. 249 et seq.
3) Löwe, Der gegenwärtige Stand der Konjunkturforschung in Deutschland, Festgabe für Luyjo Brentano, Zweiter Band, 1925, S. 367 ff.

従ひてその變動を示すところの時系列は三種のものに別たれ得ること、別に述べたるが如くである。その一は價格、又は價值系列、二は物量系列、三は價額又は取引高の系列これである。

これらの時系列はそのまゝ徵候的系列と見られる。これを單純なる、又は根本的なる系列と云ふ。この系列を原數のまゝ、又は指數に引き直すと共に、その幾つかを種々なる算法によりて組合することによりて、複合的なる徵候的系列を得る。景氣狀態の種々なる指數、ことに景氣狀態の一般指數 (general index of business conditions) はその最も代表的なものである。

複合的なる徵候的系列は同質的のものゝ複合せられたるものと、異質的のものゝ複合せられたるものとに區分することが出来る。たとへば物價指數の時系列の如きは同質的なるものゝ複合によりて構成せられたるものである。之に反して、例へば金利、貸出金額、預金金額、手形交換高等を組合せて金融の指數を作り、その時系列が求められたとすれば、此の如きは異質的なる徵候的系列である。所謂一般的景氣指數は常に極めて複合的なる、而も異質的なるものを含むところの系列たらざるを得ぬ。

さて、景氣變動の經過を示すところの種々なる徵候的系列相互間（ことに單純なる系列相互間ひいては複合的系列相互間）には種々雜多なる相互關係がある。けれどもそれらは形態の上から見ると、大體次の如き三の定型に要約せられる。もとよりこれは理想型的のものにして、現實の

相互關係は此三の定型、又は基礎的形態の何れにも分解せられ得ることが多いのは云ふまでもない。而して此變動の相互關係の定型は他面からは、一定の關係をもつ運動の定型として考へられ得る。

三、平行運動

第一定型。 平行運動 (Gleichbewegung, parallel fluctuation) 徴候的系列が相平行して變動するときに、即ち時期方向を同一にして數多の系列が變動するときに、平行運動があると云ふ。又は運動の間に平行的關係があると云ふ。振幅が同一であることもあり、又は振幅が同一ならざることもあるけれどもこの振幅が同一であるか否かは統計學的操作の如何によりて如何とも定まり得るものであると云はれぬこともない。尤も、此振幅を例へば偏差の百分率 (トレンドに對する) によりて示すと云ふやうな方法によるときには、振幅の大小と云ふことが十分に意味をもち、從ひて振幅の同一と否とが明確にあらはれて来る。振幅が同じい場合には平行運動が完全であると云ひ得べく、それが著しく異なる場合には放射運動 (Strahlendübel, radiatory fluctuation) があると云ふ。(1) 若し、景氣變動の圖表チャートを作る場合、標準偏差を求め、之を單位として變動の程度を示すとするならば、放射運動と云ふものは全く認められなくなる、そこに振幅のほゞ同一なる運動の

みが認められるはずである。(2)百分率によりて變動の圖表を作るならば、事象の如何によりて明確なる放射運動が認められ得る。而してそれが十分に理論的意義を有し得る。此放射運動はかくて平行運動の特殊なる一場合と見るべきではなからうか。(3)統計資料に於て與へられたる原數のまゝで圖表を作るときには、平行運動をなすところの如何なる事象も放射運動の形に於て示さるゝこととなるであらう、けれども、このことは何等深い理論的意味をもつのではない。

茲に述ぶるところの運動の定型はすべて景氣圖表を前提としてゐる。景氣變動を示す諸系列又は其組合せを示してゐる圖表、即ち徵候的系列の圖表的表現（グラフィカル・リプレゼンテーション）を稱して、景氣圖表と云ふ。それが景氣の豫測に役立つと云ふ目的を持つてゐる場合に之を名づけて景氣バロメータ (Business, economic barometer; Wirtschaftsbarometer) と云ふ。景氣バロメータの構成に當りては、常に一定の原理が豫想せられてゐる。而して、此原理に従ひて景氣變動の指數として見らるべき單一の、又は多數の徵候的系列が圖示せられる。これに従ひて一方、一定時期の景氣状態が測定せらるゝのみならず (economic thermometer) 更にすゝみては景氣の進行が豫測せられる。景氣の運動を示すものとして、一般指數の選べるべきか否かの問題には後に論及する。此景氣圖表に表現せらるゝところの系列がすべて、他の種類の變動を抽象したる、而して偶然的變動のみを抽象せずにとるところの、循環的不規則的系列であることは、云ふまでもない。⁴⁾

4) Wagemann, Einführung, S. 94. ff.; ditto, Economic Rhythm, p. 104 et seq.

此平行運動はその理想型に於て、+¹の相関係数を以て特徴づけられる。而してこのことは、放射運動に於てもまた同様でなければならぬと思ふ。この點に於てこれは他の二の定型と相對立せしめられる。即ち、後に述ぶるところの第二の定型にありては、ある系列の時の遅れを取除いて見る場合に、相関係数が+¹となり、第三定型にありては、之に反して相関係数が-¹となる（勿論ともに理想型についてみるとき）。かくして相関係数が+¹であるか、遅れを除くときに+¹であるか、又はそれが-¹であるかによりて、述べようとするところの三の定型が明確に區別せられて來る。

平行運動はたとへば、(1)注文高と(2)粗原料輸入高と、(3)敏性商品價格 (reagible Warenpreise, sensitive commodity prices を假にかう譯する) との間に認められる。一九二四—一九二八年の獨乙に於いて、(2)と(3)との相関係数は〇・七八、(1)と(2)との相関係数は〇・二六八、また(1)と(3)との相関係数は〇・五〇であつたと云ふ。放射運動はたとへば生活必需品價格と、卸賣價格と、敏性商品價格との間に認められる。此點に關しては、不變系列と可變系列との區別を考ふる必要がある。前にも述べたるが如く、景氣の變動に對して敏感なる經濟的數量があり、又極めて鈍感なるそれがある。鈍感なるものゝ極限に於ては景氣の動きにつれて殆ど變化せざるものがある。後者は云はゞ不變的系列である。これは、若し嚴密に解せらるゝ限り、たゞ官吏の俸給、社債利子等の如く、人爲的に一定せられたるものだけを含むであらう。けれどもよく解釋せらるゝ時には、景

氣の變動に對して割合に鈍感なる經濟的數量の時系列をも包含するものである。而して敏鈍の程度を異にするところの諸の徵候的系列はすべて此放射運動の關係を示してゐる。上に述べたる例の如きは其一である。此場合の放射性は次の如き事情によりて説明せられてゐる。一方に於て、生活必需品の取引は小市場であり、原料の取引は中市場を、敏性商品の取引は極めて包括的なる而して世界の事情を直に反映する大市場を意味する。此取引の範圍の大小が自ら價格の變動の幅に大小あらしめる。他方に於て其需要の基礎となるところの購入餘力が一は限られたる所得であり、他は必要に應じては融通によりて増加し得る資本であることから、ことに敏性商品に於ては、此増加の範圍が大きい。此事がまた價格の變動の幅を決定する。

此放射運動は可なりに廣い範圍に亘りて認められる。而して、景氣變動の説明の根據は後に述ぶるが如く究極に於て此運動の放射性の中に求めらるべきものと思はれる。所得の變動は一體にその振幅が小である、而して、物價の振幅は割合にそれが大きい。このことが景氣の上昇を行きつもらせ、又景氣が底をついて上昇せしめると思はれる。又種々なる價格は、前に一例をあげたる場合のほか極めて廣い範圍に亘りて、各その變動の幅をことにする。而してこのことが所謂價格の分化 (Differenzierung der Preise)⁵⁾の主たる場合を形づくる。異質なる諸系列の間(たとへば利子歩合と資本利潤、資本利潤と物價の間と云ふが如き、從ひて商品の價格相互間ではなく)に

5) Lederer, Konjunktur u. Krisen, G. D. S. IV. I. Teil, 1925.

於ける此放射運動的關係は、景氣變動の原因の説明にとりて重要である。

四、繼起運動

第二定型。繼起運動、又は遅れ (Folgebewegung, lead and lag)。徴候的系列の中、あるものゝ變動が規則的に他のものゝ變動に進み又は遅れ、その間に一定の時間的間隔の認めらるゝ場合には繼起運動がありと云ひ、又は繼起の關係がありと云ひ、又そこに遅れがあると云ふ。而してそこに繼起の法則が支配すると見る。此繼起運動と云ふ定型は放射運動と云ふそれと結び付くことが少くない。詳言すれば、本來振幅を異にして而も同一方向に動く諸系列が多少とも時を異にして、云はゞ繼起的に變動することも少くはない。けれども繼起の關係に主として着眼する場合に、此振幅の差異を問題とせず、むしろ標準偏差を以て變動の單位と見ることによりて、之を抽象する。而して繼起の時間的關係のみを明瞭ならしめようとする。

種々なる徴候的系列の間に存するところの最も重要な關係は、即ち此遅れの關係、又は先後の關係である。景氣の變動が單一なる一般的指數によりて表示せらるゝや否やは別に考ふべき問題であるとしても、之を構成するところの部分的變動、即ち種々なる經濟的數量の系列が大體景氣の状態を反映しかつ進行することは云ふまでもない。而もこれらの運動が相平行するにせよ、

又は相逆行するにせよ、それは同時に又一齊に進む性質のものではなく、多くはその間に先後の關係をもつ。此先後の關係は、たとへば各種の商品の價格相互の間に、各種の商品の生産物數量の間に、或は、金融事情を示すところの金利、預金の變動の間に、云はゞこれらの原始的系列の間に存するのみならず、金融又は商品等の事情を示す爲に構成せられたる複合的系列の間にも存する。景氣の變動を此點から觀察するならば、それは一の運動場の周圍を列をなして、走りつゝある一團の生徒の如きものである。此集團は常に此運動のある地位に動きつゝある。而も各人は先頭から末尾まで一定の間隔を保ちつゝ走る。此間隔は今の場合、ある程度まで一定の規律性に從ふ。ある種類の系列間の順序と間隔とは經濟的構造にして著しく變化せざる以上、變化することはない。かゝる事情に基いて、ある系列の變動をたよりとして、これに繼起するところの他の系列の變動を豫知し得る。従ひて、此遅れの關係は、景氣の豫測の上に重大なる意義を有するものである。

先後の關係に關する知識のうち、最も有名なるものは三市場スライ・マーケットバロメータと稱せられるものである。茲に三市場と云ふは、投機（株式）市場、商品市場、金融市場、（speculation, business, money; stock market, commodity market, money market）をなす。これ等の各市場の狀況の指標となるべき複合的系列が作り上げられる。而して、此等の系列の間には、一定の社會、一定の時代

の經濟的構造を反映するところの而してそれに特有なところの先後關係が認められる。勿論此先後關係は一たび認められたにしても、それはかゝる經濟的構造の基礎の上に成立したものであるから、構造を異にする他の社會、他の時代についてそのまゝあてはまるか否かは、事實の上についてののみ、はじめて考へらるべきところである。しかし此等の三市場の狀況をあらはす系列の先後の關係がほゞ明にせられると、例へばAの系列の動きからして、來るべきBの動き、即ち其の上昇又は下降を豫知することが出来る。所謂三市場バロメータと言ふのはかゝる事情に基いて構成せられる。さて一九〇三年から一九一三年まで北米合衆國の景氣變動について考察せられたる所によれば、投機の動きは、商業のそれに先だち、商業のそれは金融のそれに先だつ。此距離は大體に於て數ヶ月の（此月數を詳説しない）ものである。たゞ一九二四年以後（一九二三年には長期的傾向の計算方法も改められてゐるが）、かゝる連絡は認めがたくなつてゐると云ふ。一八九八年から一九一四年に至るまでの獨逸の事實についても、また前述の如き連絡がほゞ認められてゐる。かゝる先後の關係の如何にして存在するかについては、後に考察を加へよう。たゞ、大戦以來、此等の市場の關係が多少とも變化してゐると見られてゐる。ことに有價證券の利廻の打算が景氣變動を決定する作用が弱まつた意味に於て、投機市場の事情が歐洲に於ても北米に於ても變化したと云はれる。なほ前述の考察に於て三の市場を代表する徵候的系列を構成する爲に

一九二三年以後（その以前には更に複雑なる資料から構成せられた）利用せられたる徵候的系列は次の如きものである。⁶⁾

A. 投機——紐育市内銀行の借方、工業株式價格。

B. 商業——紐育市外の銀行の借方、卸賣物價。

C. 金融——商業手形割引歩合。

先後の關係をもつ繼起運動のうち次に注目すべきは、價格に於けるそれである。價格を極めて廣く解するときには次の如くに云ひ得る。有價證券の價格は上昇過程に於て最も先に騰貴する。一般物價は之に遅れて騰貴するが、勞銀即ち勞働の價格に先だつ。資任用役の價格である利子は更に遅れて變動する。一般物價を構成する諸商品の價格について見るに、その變動の順序については一概に言ひ去ることは極めて困難である。何となれば一々の景氣變動にはそれぞれ特殊の事情に附隨し、従ひて、例へば上昇の刺激が如何なる方面から來るかに従ひて、價格のまづ騰貴するものについて差異があるはずである。特に、外部に於ける市場の開拓、又は外國との資本の交渉からして景氣の變動する場合に於てさうである。けれども、景氣の動きは新に外部から來る刺激に負ふことなく、云はゞ内生的に進行する限りに於ては、諸商品價格の動きの間に何等かの順序を認め得る。大體に於て物價の變動は景氣の變動に於て決して早期の現象とは稱しがたい。拂込

6) 此點の詳細に關しては數多き文献にゆづる。松岡孝兒氏田村市郎氏の諸著書。Crum, The Interpretation of the Index of General Business Conditions, Review of Economic Statistics, Vol. 7. Suppl. Nr. 2; Warren M. Persons, An Index of General Business Conditions, Review of Economic Statistics, April, 1919, Preliminary Vol. 1; ditto, An Index of General Business Conditions, 1875—1913, Review of Economic Statistics, January 1927, Vol. 9; Altschul,

資本の増加、取引數量の増加、就業率の増加等よりも遅れてあらはれる。ところが此物價の動きに於て、最も早いものは、生産財價格にして工業に於ける完成財の價格はこれに遅れ、生活必需品の價格はまたこれに遅れる。

なほ此點についての叙述を進むる爲に、景氣變動の考察の爲に最も便宜であると思はるゝ財の區分を試みる。

問題として取扱ふものは、終局生産財にあらずして、みな生産物である。このうちまづ、享樂財と生産財とを別つ。二者のうち、何れにも、持續的なるものと消滅的なるもの (durable and ephemeral goods; Dauer-u. Verzehrgüter) との區別がある。持續的なるものは常に収益の目的に利用せらるゝところの、収益力をもつところの財、即ち収益財 (Ertragsgüter) である。享樂財にありては、此持續財が利用設備 (Nutzungsanlage) であり、生産財にありては、それが生産設備 (Herzeugungsanlage) 即ち固定的資本財又は略して資本財である。生産財のうち、消費的なるものは、廣義に於ける材料又は廣義に於ける間接消費財と稱し得る。その中、基礎的性質を有するものを、基礎的材料ベエエンジン、マテリアルズと云ふ。消滅的生産財のうち、設備ことに生産設備の生産の爲に必要とせらるゝものを固有なる意義に於ける間接消費財 (mittelbare Verbrauchsgüter) と稱する。消滅的生産財のうち、直接に労働の對象となり、完成財にまで成熟してゆく性質のものを原料と云ふ、一面

的なる斷定を下し得べき十分の資料を有しない。而して、種々なる商品の價格の動きにかゝる先後の關係の存することが價格の分化と密接なる關係を有する。

價格の分化と云ふは、はじめ同一の高さ（指數を以て表現する）にあつた各種の價格がそれぞれ異なる高さのものとなることを云ふ。此分化はもとより、變動の程度を異にすることから、云はゞ放射運動のために生ずるし、變動の方向を異にすることから、即ち後に述ぶる鋏形運動の爲に生ずると共に、又、而して特に、此繼起運動の爲に生ずる。勿論繼起運動の存するところでは數多の價格が同時に基準のところであり、それから相分れると云ふことはない。たゞこの價格の高さは景氣變動の波につれて或は相合し、やがて又分れる。而してこのことが景氣變動の自律性に重大なる關係をもつ。

價格の變動、たとへば上昇の場合に於て、生産財のうちの何が最もさきに騰貴するかについては、今まで一致したる意見が見がたいやうに思ふ。固定的資本財が最もさきに（又は收益財が最もさきに）騰貴すると見る立場がある。たとへばシュピイトホフを茲にかう云ふ意見の支持者であると云つても誤りではないであらう。

『好況は原則として收益財の群れから出發する。生産設備又は耐久的利用設備は好況の原動力であり、背髄である』。『收益財から出發した好況は、それによりて間接消費財が購入されるところの資本の投下の増大のうちに出發點及び基礎をもつ。こゝからして運動は享樂財に波及するのである。』⁷⁾『けれどもシュピイトホフは景氣變動の機構を論ずるに當りては常に、間接消費財の生産、及びことにその價格騰貴に重きを置く。好景氣の『出發點及び中心點を形成するものは間接消費財及び收益

7) Spiethoff, a. a. O. S. 71 ff.

財である。』而してその生産過剰の説明は間接消費財の生産過剰に重點を置いてゐる。けれども、好況が収益財から出發すると見る限り、價格の變動が先づこゝに於て生じ、次に間接消費財に及ぶと解して誤りはないと思ふ、間接消費財の價格騰貴は収益財の價格騰貴を前提としてはじめて理解し得られる。

更に明白に、價格上昇の基礎を固定的資本財に置きたるものには、カッセルがある。其見解に依れば、景氣上昇の發端をなすものは、利子の低落に伴ふ資本財價格（固定資本と呼ばれてゐる）の騰貴である。利子低落するときには一定の利潤をあげ得る資本財が騰貴せざるを得ぬ。このことが必然に資本財材料（即ち間接消費財）の價格騰貴、生産の擴張をもたらす。此見解に對する是非の批判には今立入らぬが、資本財の價格がまづ騰貴すると見る見解は注目し得る。ソムベルトに於ける第一次的上昇財と第二次的上昇財との區分が同様なる解釋を許さないであらうか。前者は収益財（其外に持續的なる享樂財にして而も収益財でないものをも含むが）と同視せられてもよいと思ふ。後者の中心をなすものは間接消費財である。而して生産の擴張はまづ前者より生ずる、このことは同時に價格の騰貴が前者にはじまることを意味する。⁸⁾ ビグウに於ては建設工業又は資本財工業（*constructional industries, instrumental industries*）が景氣の變動に於て、消費財産業よりも著しく敏感であることが（少くも表面の事實として）述べられてゐるけれども、その點は之を生産物數量の考察の場合に吟味することとする。¹⁰⁾ アフタリオンに於ては、金屬價格が最も敏感に景氣の變動を反映することが主張せられてゐる。¹¹⁾ これについて思ひ合はせるのはワアゲマン（従ひて伯林の景氣研究所の）*敏感性商品*（*reactible, sensitive commodities*）である、ワアゲマンに於ける敏感性商品は次の如きものを含む、*wool flax, hemp, ox hides, calfskins, lead, medium plates, scrap iron, machine foundry scrap, brass plate chips*。而して工業原料及び半製品の卸賣價格は此敏感性價格よりも少しく遅れて動き（振幅に於ては極めて小であるが）工業完成財は更に之に遅れる。アフタリオンに於て金屬 *machines meiers* 等が一層明に循環運動を營むといへると照し合せて考ふるべき興味が多い。¹²⁾ もとより、早期に於て、云はゞ他に先だちて上昇すると云ふことゝ、景氣の變動を明確に忠實に反映すると云ふことは必ずしも同視しがたい。後者は變動の振幅の大きいことをも意味し得るから。け

8) Cassel, *Theoretische Sozialökonomie*, S. 570.

9) 私の景氣變動論、一六九頁、三八九頁。

10) Pigou, *Industrial Fluctuations*, p. 15, 107, et 107 et seq.

11) Aftalion, *Les crises périodiques de surproduction*, 1913, Tome I. p. 24

12) Wagemann, *Economic Rhythm*, p. 158.

れども、今の場合これを同視しても甚だしい間違はなからうと思ふ。とにかく、此等の所説を併せて考ふれば、間接消費財ことに金屬價格が最も顯著なる變動を營むと共に、他に先だちて變動する。而して、理論上、収益財の變動が之に先だち且つ同様に振幅が大きいと云ひ得べきに拘らず、事實は必ずしもさうであるのではない。

五、鋏形運動

第三定型。鋏形運動又は反對運動 (Scherenbewegung, scissor movement; Gegenbewegung, counter movement)。これは二の徴候的系列が同時に而も反對の方向に向ひ、其距離極限に達したるのちまた相接近して共にもとの水準に復舊する運動を云ふ。變動の振幅は全く相等しきものから著しく相異なるものまで、區々であり得ると思ふ。此運動定型の純粹にあらはるゝことは稀であるにしても、他の定型とそれぞれ結合して實現せられてゐる。今までそれが比較的明瞭に看取せられたるものゝ一二をあげる。

信用の側について考へる。發券銀行の授與したる信用數量と商業手形の振出との間にはある程度まで此種の關係が認められると云ふ。高景氣の際信用は一時減少するのに、手形の振出はかへりて高まるが低下せぬ。即ち景氣の絶頂に於ては、手形發行の上昇曲線が發券銀行信用の下降曲線と結ぶのを見る。このことは此銀行信用が消費目的の爲に、手形が企業の爲に必要とせらるゝことに基くと考へられてゐる。景氣の上昇其極に達すると、所得従ひて、消費が減少する。その

結果、一方は減少する。而も、他方はまだ減少する段にまで進まない。なほ衰頹期に入れば手形振出高が發券銀行信用數量よりも急に減退する。けれども此二者の動きのかゝる反對運動を示すのはかゝる段階に止まり、大體を通じて見れば、不況につれて共に低下し、上昇につれて共に増加する。信用の側に於ける缺形運動の他の一例は眞正の預金と貸出との動きである。前者は沈滞期に於て漸次に増加し繁榮期に入りて著しく減少する。之に反して貸出は沈滞期を通じて下降し恢復期に上昇し繁榮期まで増加をつゞけたる後減少をはじめ、衰頹期に於ける減少もまた、預金に遅れる。

倉庫の缺形の運動も注目し値する。入庫數量は沈滞期に底をつくが上昇期に増加して、繁榮期に於て最高に達し、衰頹期に激減する。出庫數量は其變動の振幅著しく小であるばかりでない、大體の運動の方向を云へば、沈滞期に於ても餘り減少せず、入庫數量に超過する、恢復期に於てもあまり上昇せず、繁榮期に於ては著しく入庫數量に不足する。かくて、極めて明白なる缺形運動を示す。此入庫出庫の兩系列の動きの結果として在庫數量(滞貨)の動き (Lagerbewegung, storage fluctuation) が成立する。それは沈滞期間中漸次に減少し恢復期間のうちに於てその底に達する、而して衰頹のはじめに最高位を示す。

なほ外國貿易に於ける缺形の運動が注目せられる。原料及び半製品の輸入超過と完成品の輸出

超過とが鉞形の運動をなして運行する。前者は、大體に於て景氣の波動に平行しながら増減する。沈滯期に於て其底をつきたる後、恢復期に上昇し、繁榮期に於て絶頂に達する。而して、衰頹期に於て著しく下降する。然るに後者は之に反して、景氣上昇につれて減少しその下降につれて増加する。而して沈滯期に於てその頂に、恢復期の末から繁榮期にかけてその底に達する。勿論、二の波は著しく振幅を異にする、前者に於て著しく大にして後者に於て小である。このことは一方、外國市場の廣汎でありその景氣狀況は相殺すること多きがゆゑに、その購入餘力には割合に變化の乏しいこと、國內の景氣の良好なるほど輸出入の困難なることにより、他方、原料等の輸入が主として國內の景氣に決定せられてのみ、而してそれと平行するやうに變動すること、此二の事情に負ふ。振幅の異なるに拘らず、變動の方向の異なることが、鉞形の運動をあらはさしめる。

六、一般指數の可能

景氣變動を構成する諸事象の系列の動きの間に存する關係の定型的なるものを求めて、以上の如くに要約した。けれども、諸の徵候的系列の關係は、大體に於てこれらのものゝ錯綜であるがこれらのものに還元し、又は分析することの出来ぬ不規則的なる關係をも含むである。今これだけの前提からして、景氣の一般指數と云ふものが如何なる意義を有するかを考察しよう。

景氣の狀況を各種の徵候的系列を綜合して得たる一の綜合的指數によりて示さうとする時、之を景氣の一般指數と云ふけれども此一般指數と云ふものが果して合理的に構成し得らるゝか。之に關して次の如き種々なる困難がある。(1)組合せらるべき徵候的系列が如何にして選擇せらるゝか。此選擇については、所謂循環的説明に陥らざるまでも、何人も納得のゆく選擇をなす事不可能である。(2)多數の系列の結合の方法に困難がある。例へば加重の方法をとるにしても、何れにどれだけの重みを加ふるかを、合理的に決定する手がかりは見出しかたいであらう。加之、變動の振幅の差異を如何に取扱ふべきか、すべてを標準偏差に對する割合に改むることが一の方法であるにしても、それでは、たとへば金額に於ける僅少の動きと巨額の動きとを同視することになり、種々なる點に無理を生じよう。(3)特に困難は繼起變動に伴ふ。數多の徵候的系列が一齊に變動せず、すべて繼起的に動くものならば、それらの綜合は自ら相殺する傾なしとしないであらう。すべての事象すべての系列をとらへて之を組合せるならば、循環的變動は少しもあらはれないとする見解すらもある。勿論、諸の系列の間に確定的なる遅れがあるならば、何ヶ月かの此遅れを計算に入ることによりて、かゝる困難を免れ、數多の系列の何等かの綜合から、景氣の動きの指數を求め得るやうに見える。けれども此遅れは景氣の波の個性につれて區々であるばかりでなく、同一の波動の段階によりてすらまた異なるであらう。さうであれば、かゝる遅れを考慮に入

ることによりて、総合的なる景氣指數を求め得べしとは考へられぬ。要するに景氣の総合的なる一般指數を求むると云ふことは至難なる仕事である。勿論このことは、今までに之を求めたる種々の試みを以て全然無價值なりとするのではない。それは何等この程度に於て景氣の姿を反映してゐよう、けれどもそれが唯一の、而して最もよく景氣の動きを示すところの指數であるとは云はれまい。

けれども景氣の状況を單一なる系列又は曲線を以て示すことの要求は常に存する。かゝる要求に應ずる爲には、此一般指數の外に、而してその代りに、屢々單純なる一の時系列が選ばれた。それは數多の徵候的系列のうち、最もよく景氣の變動を反映すると思はるゝもの、即ち最も優れて徵候的なる系列から、景氣指數を求むることである。かゝる指數としては、就業率指數、銑鐵生産額又は消費額、手形交換高、ならびに物價又は婚姻率などが選ばれる。これらのうち今の目的に最もよく利用さるゝのは就業率指數である。これは長期的傾向を示すこと割合に少く、景氣の變動のみを比較的忠實に反映する。けれども、これとても、一方には遅れの爲に投機及び金融に於ける動きを、それだけで知ることが困難であり、又他方に於ては、生産の側に於ても可なりに遅く動く系列たるを免れぬ。